

〔１〕文化財保護事業

主に、文化財調査、文化財保護思想の普及などに取り組んでいます。

令和4年度埋蔵文化財発掘調査一覧

番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査内容	調査原因
1	永添中園遺跡	大字永添字外屋敷1595-1	50	遺構遺物なし	集合住宅建設
2	沖代地区条里跡	沖代町二丁目206番1外	60	土坑、溝状遺構	宅地造成
3	沖代地区条里跡	中央町1丁目773番1	40	遺構遺物なし	集合住宅建設
4	中津城跡	三ノ丁1300番4	25	石垣	個人住宅建替え
5	福島遺跡	大字福島718番3外	3	遺構遺物なし	個人住宅建設
6	中津城下町遺跡	西堀端2486-1外	14	遺構遺物なし	集合住宅建設
7	八並城跡	大字永添2368番外	4	遺構遺物なし	市道改良
8	沖代地区条里跡	沖代町1丁目171番外	47	遺物散見	集合住宅建設
9	三口遺跡	大字相原字後畑3358	8	遺構遺物なし	宅地造成
10	沖代地区条里跡	沖代町2丁目46番1	26	溝	宅地造成
11	上池永矢筈遺跡	大字上池永字矢筈494番2	15	遺構遺物なし	個人住宅建設
12	定留遺跡	大字定留字鯉ノ堀961番1	18	遺構遺物なし	集合住宅建設
13	上ノ原平原遺跡	大字永添2765番40	14	遺構遺物なし	市道新設
14	佐知遺跡	三光佐知字高原47番1外	90	溝ほか	市道改良
15	周知遺跡外	大字是則333番地4	11	遺構遺物なし	工場建設
16	市場遺跡	大字相原3739-6番	6	遺構遺物なし	市道改良
17	原口遺跡	三光原口761番1外	180	溝状遺構	宅地造成
18	沖代地区条里跡	大字永添387-1外	115	遺構遺物なし	店舗建設
19	下池永遺跡	大字下池永字北原550番1	40	溝	店舗建設
20	野依地区条里跡	大字植野104番1外	48	溝/古墳時代	社員寮造成
21	沖代地区条里跡	大字一ツ松319番1	85	柱穴/中世	宅地造成
22	八並城跡	大字永添2451外	800	建物跡/古代	史跡範囲確認
23	沖代地区条里跡	大字宮夫字九ノ坪282番1外	150	溝状遺構	集合住宅建設
24	中津城跡	三ノ丁1300番4	70	石垣/陶磁器	個人住宅建替え

番号	遺跡名	所在地	調査面積	調査内容	調査原因
25	佐知遺跡	三光佐知字高原47番1外	172	土坑、溝状遺構等 /弥生土器、陶磁 器等	市道改良
26	原口遺跡	三光原口761番1	107	方形周溝墓か	位置指定道路建設
27	沖代地区条里跡	大字一ツ松319番1	64	柱穴、溝/中 世～18世紀	宅地造成
28	下池永遺跡	大字下池永字北原550番1	568	溝、土坑/中 世	店舗建設
29					
30					
31					
32					
33				八並城跡	
34					
35					
36					
37					
38					
39					
40					

〔2〕施設案内

中津市歴史博物館



施設概要	令和元年11月に中津城内堀沿いに新設した博物館です。建物の北側は総ガラス張りで、黒田官兵衛の築いた九州最古の石垣が展示物のように見学できます。中津の通史の常設展示、様々な企画展示などを行う展示室のほか、無料ゾーンには、体験学習ができるプレイスタジオ、石垣と映像を鑑賞できるシアター、中津のお祭りを紹介するお祭りギャラリー、ミュージアムショップやカフェなどを設けています。また、館内では中津市の魅力の情報発信も行い、周遊観光の拠点としての活用も進めています。歴史文化・美術の展示以外にもコンサート・マルシェなどのイベントやワークショップなど多彩な取り組みを行っています。
利用案内	■開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで） ■休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 年末年始（12/29～1/3） ■入館料 無料 ※展示室1・2のみ有料 一般 300円（中学生以下無料） 団体 100円（20名以上）
所在地	中津市1290番地（三ノ丁） ☎（0979）23-8615 FAX（0979）23-8616

新中津市学校



施設概要	新中津市学校は、慶應義塾で福澤諭吉に次いで尊敬を集めた小幡篤次郎の生誕地にあり、当初は篤次郎の遺言により明治42年（1909年）建設開館した小幡記念図書館でした。昭和13年（1938年）に建て替え、その後、図書館の移転新築により、平成4年（1992年）からは中津市歴史民俗資料館として再出発しました。さらに、平成30年（2018年）から耐震工事を実施し、令和元年（2019年）8月、市民の学習・交流、慶應義塾との共同研究などを行う新中津市学校としてリニューアルしました。建物は、貴重な昭和初期の建築物として、国の登録文化財になっています。 Wi-Fiが利用でき夜間も開館している利便性から、一階の学習交流室では学生や社会人の学習の場として、2階は市民講座や会議など様々な形で活用されています。
利用案内	■開館時間 午前9時～午後7時（2階集会室の利用は午後9時まで） ■休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 年末年始（12/29～1/3） ■利用料金 1階学習交流室 無料 2階集会室 1時間当たり1,100円
所在地	中津市1385番地1（殿町） ☎（0979）26-1459 FAX（0979）26-1459

中津市歴史博物館分館
村上医家史料館



施設概要	村上医家は、初代村上宗伯が寛永17年(1640年)諸町に医院を開業して以来、現在に至るまで医家として継続し数千点に及ぶ医学関係やその他の資料が残されています。当時から現在まで連綿と続く村上医家の所蔵品とその建物を元に、村上医家の史料及び人体解剖に至るまでの医学の流れを中心に展示をおこなっています。江戸時代の屋敷がそのまま医家史料館となっており、天井の造りや薬瓶の並ぶ薬局、高野長英をかくまっていたという土蔵など、建築物自体の見学も見ごたえがあります。
利用案内	■開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで） ■休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 年末年始（12/29～1/3） ■入館料 大人 個人210円 団体（30名以上）120円 大学・高校生 個人100円 団体（30名以上）60円 中学生以下 無料 ■村上・大江共通券 大人 個人300円 団体（30名以上）200円 大学・高校生 個人150円 団体（30名以上）100円
所在地	中津市1780番地(諸町) ☎(0979) 23-5120 FAX(0979) 23-5120

中津市歴史博物館分館
大江医家史料館



施設概要	大江医家史料館では、「解体新書」の刊行などのオランダ語の医学書の翻訳から始まる蘭学者の誕生、漢方と西洋医学の良いところを取り入れた「漢蘭折衷派」の代表華岡青洲の資料、明治に入ってから歯科医第1号の小幡英之助や心臓拍動の謎を解明した田原淳博士などの資料も併せて展示しています。「解体新書」初版本や長崎のオランダ通司によって翻訳された解剖書の図版「和蘭全軀内外分合図(オランダぜんくないがいぶんごうず)」など貴重な資料を展示しています。また、薬草園では、四季折々の様々な薬草を楽しむことができます。
利用案内	■開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで） ■休館日 毎週月曜日（祝日の場合は翌日） 年末年始（12/29～1/3） ■入館料 大人 個人210円 団体（30名以上）120円 大学・高校生 個人100円 団体（30名以上）60円 中学生以下 無料 ■村上・大江共通券 大人 個人300円 団体（30名以上）200円 大学・高校生 個人150円 団体（30名以上）100円
所在地	中津市906番地(鷹匠町) ☎(0979) 22-0049 FAX(0979) 22-0049

耶馬溪風物館



施設概要	耶馬溪風物館は、大正の頃、広島の漢学者小野桜山が全国行脚により収集した古書一万巻を収蔵した「馬溪文庫」を起源とし今に至っています。現在は3205巻、7800冊余りを所蔵し、その一部のほか桜山のコレクションであった掛軸、屏風なども展示しています。30年もの歳月をかけて隧道を貫通させた禅海和尚に関する資料や、青の洞門を舞台にした文豪、菊池寛の小説「恩讐の彼方に」がマジックビジョンで放映されています。また、「日本遺産やばけい遊覧」の見どころを紹介する日本遺産センターとなっています。中津市・玖珠町の歴史と見どころを紹介しており、耶馬溪の旅の魅力を伝えています。
利用案内	■開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで） ■休館日 年末年始（12/29～1/3） ■入館料 無料
所在地	中津市本耶馬溪町曾木2193番地1 ☎(0979) 52-2002 FAX(0979) 52-2251

福澤諭吉旧居
福澤記念館



施設概要	中津市留守居町にある福澤記念館は、国指定史跡福澤諭吉旧居に隣接して建てられています。福澤記念館には、福澤諭吉の書・手紙・写真などのほか父百助の書や関係する人々の資料が展示されています。 福澤諭吉旧居は、諭吉が長崎に遊学するまでの幼少青年期を過ごした家です。自ら改造し勉学に励んだ土蔵も当時のまま残されており、時代をリードしてきた諭吉の人生の原点を垣間見る事ができます。 諭吉の人柄そのままに訪ねる人の心を癒してくれるこの旧居は、国の文化財に指定されています。
利用案内	■開館時間 午前9時～午後5時（入館は4時30分まで） ■休館日 12月31日 ■入館料 高校生以上 個人 400円 団体（20名以上） 300円 中学生以下 個人 200円 団体（20名以上） 150円
所在地	中津市586番地(留守居町) ☎(0979) 25-0063 FAX(0979) 23-2938

〔 3 〕 文化財一覧

国指定文化財一覧

件数		種別①			種別②		種別③	指 定 年 月 日	名 称	所 在 地	所 有 者	摘 要
1	1	重要文化財	有形文化財	1	建 造 物	1	木 造	S63.12.19	薦神社神門	中津市大字大貞209番地	薦神社	他に類例を見ない形式の二重門。江戸時代初期の門として九州地方を代表する建築。
2	2	重要文化財	有形文化財	2	建 造 物	2	木 造	S50.6.23	神尾家住宅	中津市山国町守実120番地	個人	江戸時代に組頭を務めた旧家で明和八年（1771）に建てられた九州最古の曲家として有名。
3	3	重要文化財	有形文化財	1	美 術 工 芸 品	1	彫 刻	H24.9.6	銅造観音菩薩立像	中津市三光西秣1893番地	長谷寺	飛鳥時代末期の在銘金銅仏。中国隋風の様式を受ける。毎年4月20日に御開帳される。
4	4	重要文化財	有形文化財	2	美 術 工 芸 品	2	彫 刻	H26.8.21	羅漢寺石仏	中津市本耶馬溪町跡田1501	羅漢寺	延文5年（1360）に、円龜昭覚・逆流建順によって製作された石仏群。釈迦三尊や五百羅漢を中心に545点（供養具等を含む）が指定。
5	1	重要文化財	民俗文化財	1	有 形 民 俗 文 化 財	1	庶民信仰物？	S31.4.26	くぐつ傀儡子	中津市大字伊藤田237番地	古要神社	1617年、細川忠興によって制作されたものと考えられている。相撲人形など60体が指定。
6	2	重要文化財	民俗文化財	1	無 形 民 俗 文 化 財	2	民俗芸能	S58.1.11	古要神社の傀儡子の舞と相撲	中津市大字伊藤田237番地	古要舞保存会	上記傀儡子を使用し3年に1度、傀儡子の舞と相撲を奉納。
7	3	重要文化財	民俗文化財	2	無 形 民 俗 文 化 財	3	民俗芸能	H28.3.2	豊前神楽	－	大分県豊前神楽保存連合会	豊前系の岩戸神楽。中津市の国指定団体は、植野・蛸瀬・福島各団体
8	1	記念物		1	史 跡	1		S46.6.22	福沢諭吉旧居	中津市582番地他(留守居町)	中津市	福澤諭吉の思想を育んだ場であり、著名な啓蒙思想家の住まいした所として重要な史跡。
9	2	記念物		2	史 跡	2		H22.2.22	長者屋敷官衙遺跡	中津市大字永添2303番地3ほか	中津市・大分県	8世紀中～10世紀前半の郡衙正倉と16世紀後半の中世城館の2種の遺跡。
10	3	記念物		1	名 勝	1	自然名勝	T12.3.7 S11.7.14	耶馬溪	中津市大字高瀬の大井出井路堰より上流～三光田口・臼木・土田・本耶馬溪町・耶馬溪町・山国町	大分県	大分県の西北部に位置し、中津、宇佐、玖珠、日田にまたがる景勝地。
11	4	記念物		1	天 然 記 念 物	1	植 物	S40.6.4	犬ヶ岳ツクシシヤクナゲ自生地	中津市耶馬溪町国有林地内中津経営区	農林水産省	巨木となった群落は見事なもので、5月頃に淡紅色で7弁の花を咲かすシヤクナゲ。
12	5	記念物		2	天 然 記 念 物	2	地質鉱物	S10.6.7	耶馬溪猿飛 おうけつ の甌穴群	中津市山国町草本550番地他	中津市	自然が造り上げた大小無数の甌穴が川床に広がる。下流数百mに及ぶ。
13	6	記念物		3	天 然 記 念 物	3	地質鉱物	S16.8.1	鷹巢山	中津市山国町槻木国有林内	農林水産省	山国町槻木～福岡県添田町に位置し、一の岳、二の岳、三の岳からなる代表的なビュート。

国登録文化財一覧

R3.5.1現在

	種別①		種 別 ②		種 別 ③	指定年月日	名 称	所 在 地	所 有 者	摘要
1	登録有形文化財	1	建 造 物	1	木 造	H9.12.12	旧小幡記念図書館	中津市1385番地(殿町)	中津市	昭和13年(1938)の改築によって今日の様相をなす。玄関口にバルコニーを設けた木造モルタル建築。
2	登録有形文化財	2	建 造 物	2	木 造	H13.8.28	久恒家住宅正門	中津市大字上宮永3番地1	個人	大正13年築。1 間 1 戸の棟門で、良質のケヤキ材を使った豪壮な作り。

国登録文化財一覧

3	登録有形文化財	3	建 造 物	3	木 造	H13.8.28	久恒家住宅客間棟	中津市大字上宮永3番地1	個人	複雑な屋根を構成する平屋建の建物。ヒノキやケヤキの良材・銘木を用いた書院造り。
4	登録有形文化財	4	建 造 物	4	木 造	H13.8.28	久恒家住宅奥座敷	中津市大字上宮永3番地1	個人	客間棟とともに京都の宮大工が手がけたと伝えられ、近代の書院造として洗練された質の高さが伺える。
5	登録有形文化財	5	建 造 物	5	木 造	H13.8.28	久恒家住宅居住棟	中津市大字上宮永3番地1	個人	北側に玄関、南側には銘木を用いた床・付書院をもつ座敷を配す。細部は近代的な造形でまとめる。
6	登録有形文化財	6	建 造 物	6	木 造	H13.8.28	久恒家住宅長屋門	中津市大字上宮永3番地1	個人	寄棟造・棧瓦葺の細長い建物。正面と北側面は白漆喰塗。
7	登録有形文化財	7	建 造 物	7	木 造	H13.8.28	久恒家住宅東蔵	中津市大字上宮永3番地1	個人	1階が収蔵庫、2階が洋風座敷で下に半地下倉庫をもつ。煉瓦造だが、外壁は漆喰塗とモルタル塗を併用する。
8	登録有形文化財	8	建 造 物	8	木 造	H13.8.28	久恒家住宅西蔵	中津市大字上宮永3番地1	個人	木造2階建、寄棟造・棧瓦葺の倉庫建築。防火性能を重視した造り。
9	登録有形文化財	9	建 造 物	9	木 造	H13.8.28	久恒家住宅米蔵	中津市大字上宮永3番地1	個人	東西棟。切妻造・棧瓦葺で、外壁モルタル塗。豪壮な屋敷に相応しい大きな蔵。
10	登録有形文化財	10	建 造 物	10	木 造	H13.8.28	久恒家住宅オンドル部屋	中津市大字上宮永3番地1	個人	オンドルを採り入れた離れの建物。
11	登録有形文化財	11	建 造 物	11	木 造	H13.8.28	久恒家住宅物置	中津市大字上宮永3番地1	個人	北面は煉瓦塀を用い、通用口を開く。
12	登録有形文化財	12	建 造 物	12	木 造	H13.8.28	久恒家住宅給水塔	中津市大字上宮永3番地1	個人	1辺約1.3m、高さ約5m。大正期における住環境を物語る数少ない施設。
13	登録有形文化財	13	建 造 物	13	木 造	H13.8.28	久恒家住宅煙突	中津市大字上宮永3番地1	個人	1辺約0.9m、高さ約4m。居住棟の風呂場用のもの。近代の生活をうかがい知る施設。
14	登録有形文化財	14	建 造 物	14	木 造	H13.8.28	久恒家住宅裏門	中津市大字上宮永3番地1	個人	小規模な1間1戸の棟門。簡素だが堅実な細部を備える。
15	登録有形文化財	15	建 造 物	15	木 造	H13.8.28	久恒家住宅北塀	中津市大字上宮永3番地1	個人	総延長約37m。煉瓦はイギリス積。上部を笠石で覆う。
16	登録有形文化財	16	建 造 物	16	木 造	H13.8.28	久恒家住宅南塀	中津市大字上宮永3番地1	個人	
17	登録有形文化財	17	建 造 物	17	木 造	H15.9.19	筑紫亭主屋	中津市1692番地他	筑紫亭	木造 大正3年建設 大正11年増築 造作にも請った数奇屋風の意匠でまとめる。
18	登録有形文化財	18	建 造 物	18	木 造	H15.9.19	筑紫亭離れ	中津市大字島田835-15、835-91	筑紫亭	大正末期建設。客室は各々異なるつくりの床で飾る。

国登録文化財一覧

19	登録有形文化財	19	建築物	19	木造	H15.9.19	筑紫亭堀	中津市1692番地他	筑紫亭	大正期建設。延長17m、高さ3.15m。
20	登録有形文化財	20	建築物			H12.9.26	旧耶馬溪鉄道一号・	中津市三光土田	大分県	石とレンガ造り。大正2年(1913)の建設。
21	登録有形文化財	21	建築物			H12.9.26	旧耶馬溪鉄道二号厚ヶ瀬トンネル	中津市三光土田	大分県	石とレンガ造り。大正2年(1913)の建設。
22	登録有形文化財	22	建築物			H9.12.12	旧耶馬溪鉄道平田駅ホーム	中津市耶馬溪町大字平田1361番地の3、4		旧耶馬溪鉄道の名残をとどめている近代遺産。
23	登録有形文化財	23	建築物	20	木造	H25.6.21	正行寺本堂 一棟	中津市大字永添字城屋敷1190	正行寺	木造平屋建 瓦葺 江戸末期建築。 総桁行約27m。入母屋造。正面に向拝三間を設ける。後門形式の平面を持つ真宗本堂。軸部は良質なケヤキの長大材を用いる。
24	登録有形文化財	24	建築物	21	木造	H25.6.21	正行寺鐘楼 一棟	中津市大字永添字城屋敷1148-1	正行寺	木造 瓦葺 江戸末期建築。 布石積の基壇上に東西棟で建つ吹き放し形式の鐘楼。真宗寺院伽藍を特徴付ける。
25	登録有形文化財	25	建築物	22	木造	H25.6.21	正行寺山門 一棟	中津市大字永添字城屋敷1148-1	正行寺	木造 瓦葺 間口4.3m 四脚門 切妻造 江戸末期建築 柱頭を成が高く華やかな絵様を施した梁や頭貫で固め、重厚な軸部を構成する。
26	登録有形文化財	26	建築物	23	木造	H25.6.21	正行寺袖堀 一棟	中津市大字永添字城屋敷1148-1	正行寺	木造 瓦葺 総延長20m 江戸末期建築 北側堀の北面に潜戸を開く。布石基礎上に須柱を立てる。
27	登録有形文化財	27	建築物	24	木造	H29.5.2	平田家住宅主屋 一棟	中津市耶馬溪町大字平田字川原田1062	平田サツキ	木造 瓦葺 3階建 415㎡明治中期建築 当地の政財界で活躍した平田氏の屋敷。県内を代表する近代和風住宅
28	登録有形文化財	27	建築物	24	木造	H29.5.2	平田家住宅新座敷 一棟	中津市耶馬溪町大字平田字川原田1062	平田サツキ	木造 瓦葺 平屋建 90㎡大正時代の建築。平田家の新座敷。書院造の建物だが、外材を多様するなど当時の流行を示す。

国登録記念物

1	登録名勝	1	庭園	1		R1.10.16	平田氏庭園	中津市耶馬溪町大字平田字川原田	平田サツキ	大正時代に造営された、平田家住宅（国登録）に付随する庭園。
---	------	---	----	---	--	----------	-------	-----------------	-------	-------------------------------

国選択文化財一覧

	種別①		種別②		種別③	指定年月日	名 称	所 在 地	所 有 者	摘要
1	選択 無形民俗文化財	1	風 俗 慣 習			S32.3月	傀儡子の舞及び相撲	中津市伊藤田	古要舞保存会	風俗慣習の部 選択
2	選択 無形民俗文化財	1	民 俗 芸 能 ・ 行 事 関 係			S53.1.31	古要神社の傀儡子	中津市伊藤田	古要舞保存会	民俗芸能の部 選択

県指定文化財一覧

R3.5.1現在

件数		種別①	種別②		種別②		種別③	指 定 年 月 日	名 称	所 在 地	所有者	摘 要
1	1	有形文化財		1	建造物	1	石造	H2.3.29	やま 箭山神社角 塔婆	中津市三光 田口3567番 地1	箭山神社	高さ116cm、四面そ れぞれに墨書種子が ある。
2	2	有形文化財		2	建造物	2	石造	S49.3.19	古羅漢国東 塔	中津市本耶 馬溪町跡田	個人	古羅漢の巨岩の突端 にある。塔身は長く 反花には蓮弁の彫刻 はない。総高2.34m (室町時代)
3	3	有形文化財		3	建造物	3	石造	S53.3.31	屋成家墓地 国東塔	中津市本耶 馬溪町東屋 形587番地	個人	屋成家墓地石塔群の 中の二基。 総高 196cm (弘安五年： 鎌倉期)
4	4	有形文化財		4	建造物	4	石造	S56.3.31	耶馬溪橋	中津市本耶 馬溪町曾木 66番地の2、 中津市本耶 馬溪町樋田 177番地の2	中津市	長崎県に多い石積み 方式を採用している ため、別名オランダ 橋とも言われてい る。橋長116m
5	5	有形文化財		5	建造物	5	石造	H3.3.26	羅漢寺橋	中津市本耶 馬溪町跡田 7番地の2、 中津市本耶 馬溪町曾木 1642番地の 1	中津市	三連アーチ石造橋 大正 6 年 3 月着工 大正 9 年 9 月竣工 橋長 91m
6	6	有形文化財		6	建造物	6	石造	H15.3.31	檜原山の梵 字鳥居	中津市耶馬 溪町大字中 畑1422番地	正平寺	神仏混合の檜原山正 平寺にあり、仏教の 梵字が彫り込まれて いる珍しい鳥居。
7	7	有形文化財		7	建造物	7	石造	H30.2.6	馬溪橋	中津市耶馬 溪町大字平 田字上町地 先から大字 戸原字大塚 地先	中津市	大正12年 (1923) に 竣工した、山国川上 に位置する橋長 81.93mの5連アーチ 橋。近代の石橋建造 の技術と文化を伝える 貴重な石橋
8	8	有形文化財		1	美術工芸品	1	工芸品	S55.4.8	永岡家刀	中津市大字 一ツ松	個人	銘：平鎮種 「星屑 鎮種」 刃長2尺6寸2分5厘
9	9	有形文化財		2	美術工芸品	2	工芸品	S58.4.12	徳永家槍	中津市大字 大新田	個人	銘：信国吉則 刃長 29.1cm
10	10	有形文化財		3	美術工芸品	3	工芸品	S50.3.28	新宮権現社 かけぼとけ 懸仏(一五)	中津市山国 町草本407 番地	新宮権現社	この中の十一面観音 像を留めたものは鎌 倉後期か南北朝期の もの。
11	11	有形文化財		4	美術工芸品	4	工芸品	S49.3.19	新宮権現社 わにくち 鰐口	中津市山国 町草本407 番地	新宮権現社	直径21cm、応永35年 (1428)の銘を持ち、 大分県内で発見され ているものでは二番 目に古い。
12	12	有形文化財		5	美術工芸品	1	彫刻	S51.3.30	木造地藏菩薩 坐像	中津市本耶 馬溪町西谷 3063番地	雲谷寺観音 講中	檜材 寄木造 玉眼 白毫 像高61.9cm (南北朝 時代)
13	13	有形文化財		6	美術工芸品	2	彫刻	S51.3.30	木造菩薩形 坐像	中津市本耶 馬溪町西谷 3063番地	雲谷寺観音 講中	檜材 寄木造 玉眼 白毫 像高35.9cm (南北朝 時代)
14	14	有形文化財		7	美術工芸品	3	彫刻	S59.3.30 S61.3.31 附 一部追加指定	妙見堂木造 妙見菩薩坐 像 附 男 女神像(二 躯)・妙見菩 薩像(一 躯)・阿弥陀 如来像(一 躯)・菩薩形 神像(一躯) 古羅漢石造 観音菩薩坐 像 附 木 製五輪塔 (一基)・紙 本墨書光明 真言種子 (一紙)・納 入人歯(右 上顎第一臼	中津市本耶 馬溪町曾木 2087番地	青地区	洞門駐車場より妙見 岩を30分ほど登ると 妙見窟にたどりつ く。そこに設置して いる祠に安置されて いる。いずれも一木 造りで肌の立体感が あり平安時代の作風 がよく表現されてい る。
15	15	有形文化財		8	美術工芸品	4	彫刻ほか	H2.3.29	古羅漢石造 観音菩薩坐 像 附 木 製五輪塔 (一基)・紙 本墨書光明 真言種子 (一紙)・納 入人歯(右 上顎第一臼	中津市本耶 馬溪町跡田 1052番地 1	個人	総高111cm。この観 音菩薩石仏の左膝より 一木造りの五輪塔 (高さ7.4cm) が納 入されていた。その 五輪塔の底部に光明 真言種子を墨書した 紙片と人歯が納めら れていた。(正平17 年)

県指定文化財一覧

16	16	有形文化財		9	美術工芸品	5	彫刻	R4.2.25	木造大日如来坐像	中津市995番地(寺町)	久福寺	像高76.2cm。桧材を用いた寄木造の仏像。当寺の本尊であり、平安時代末期に中央仏師の手で制作されたと考えられる。
17	17	有形文化財		10	美術工芸品	1	書跡	S35.3.22	池大雅筆障壁書画	中津市1903番地(新魚町)	自性寺	池大雅の遺墨46点
18	18	有形文化財		11	美術工芸品	1	絵画	H.27.2.24	薦社縁起絵	中津市大字大貞209番地の1	薦神社	薦神社に伝来する縁起絵3幅で、三角池や宇佐宮及び関連する神社の様子がわかることから、絵画としても重要な作品
19	19	有形文化財		12	美術工芸品	1	歴史資料	H22.3.30	惣町大帳及び市令録	中津市1367番地(片端町)	中津市	中津町会所の記録。享保3年(1718)から文久2年(1862)までが現存。
20	20	有形文化財		13	美術工芸品	1	考古資料	H2.3.29	深水家遺跡出土遺物	中津市三光下深水	個人	銅銭・和鏡・鉄小刀・鉄鉈・鉄鎌などが備前焼の中に一括して納められていた。
21	1	記念物		1	史跡			S32.3.26	植野貝塚	中津市大字植野	個人	縄文後期の貝塚。土器をはじめ、自然・人工遺物などから当時の生活を知ることができる。
22	2	記念物		2	史跡			S51.3.30	三角池と薦神社	中津市大字大貞198番地5他	薦神社	御神体である三角池および社殿。神門は細川忠興の再建。
23	3	記念物		3	史跡			S57.3.30	棒垣遺跡	中津市大字福島1403番地	中津市	縄文後期から弥生前期にかけての集落跡。
24	4	記念物		4	史跡			H21.3.17	中津城おかい山	中津市1904番地(新魚町)	自性寺	中津城下町一帯を守るために築かれた土塁。九州には中津にしか残っておらず、市内で最も残りのよいもの。
25	5	記念物		5	史跡			H22.3.30	相原山首遺跡	中津市相原3000番地31	中津市	古代の中津周辺をおさめた豪族達の累代墓。仏教需要の様相を解明するうえで重要な遺跡。
26	6	記念物		6	史跡			S59.3.30	川平間歩の跡	中津市三光土田および臼木	荒瀬井堰土地改良区	貞享3年(1686)着工、元禄2年(1689)完工、昔のままのノミの跡が残る。
27	7	記念物		7	史跡			S17.8.10	青の洞門	中津市本耶馬溪町樋田、曾木	中津市	菊池寛の小説「恩讐の彼方に」の舞台となり、禪海の名とともに有名である。
28	8	記念物		8	史跡			H2.3.29	へぎ粉洞穴	中津市本耶馬溪町今行799番地他	中津市	縄文時代の洞穴遺跡。洞穴内からは68体の縄文時代の人骨や土器、石器、骨角器などが多数出土した。
29	9	記念物	33	9	史跡			H23.3.29	長岩城跡	中津市耶馬溪町大字川原口	個人	野仲氏によって築城され、黒田長政に攻め落とされた中世の山城。大規模な石積み遺構を持つ。
30	10	記念物		10	史跡			H25.3.15	相原廃寺付塔心礎	中津市大字相原	個人ほか	7世紀後半に建立されたと考えられている寺跡。
31	11	記念物		11	史跡			H26.2.14	中津城跡	中津市1278番10,1273番3,1278番1,1279番,1280番1の一部,1278番7,1278番8,1279番9,1271番3,1257番14	中津神社 中津大神宮 城井神社 財務省 中津市	天正15年に豊前六郡を拝領した黒田孝高によって整備が始まった九州最古の近世城郭。

県指定文化財一覧

32	12	記念物		12	史跡			H31.3.12	平田城跡	中津市大字平田字城1067、1088、1089.1091.1094-1、1094—2、1095、1098、1101-1、1101—2、1102—2、1108、1109、1117、1118、1120、1121、1134-2、1137-1、1137-2字城ノ後1138、1139、1140	中津市ほか26人	野仲氏代々の抱城で黒田騒動で有名な栗山大膳が生まれた城。
33	34	記念物	33	13	史跡			R2.2.7	法垣遺跡	中津市大字加来1568、1569、1570、1571、1572の各一部	中津市	縄文時代の集落跡、掘立柱建物、堅穴住居跡などが発見された
34	13	記念物		1	天然記念物	1	植物	S55.4.8	三角池の水生湿地群落	中津市大字大貞209番地5他	薦神社	6世紀末から7世紀中頃に築かれた人工池。貴重な生物群集がある。
35	14	記念物		2	天然記念物	2	植物	S51.3.30	長谷寺境内林	中津市三光西株2155番地	長谷寺	長谷寺境内のコジイ・アカマツなどの自然林19、960㎡。
36	15	記念物		3	天然記念物	3	植物	S51.3.30 S59.3.30	田口のイチイガシ林	中津市三光田口3572番地の一部他	中津市	八面山中腹にあるイチイガシ林など5、916㎡。
37	16	記念物		4	天然記念物	4	植物	S54.5.15	高平のイワシデ林	中津市本耶馬溪町東屋形	個人	本耶馬溪町の北東端、八面山の南側に群生している。
38	17	記念物		5	天然記念物	5	植物	S28.4.20	ブナの原生林	中津市耶馬溪町大字榎山路・山国町中摩殿畑山国有林内	中津市・農林水産省	現在では、少なくなったブナの木の原生林。
39	18	記念物		6	天然記念物	6	植物	S28.4.20	千本カツラ	中津市耶馬溪町大字中畑	中津市	桧原山中腹にあり、高さ30m、下部の周り11mある桧原山で修行した役の行者が植えたと言われるカツラ。
40	19	記念物		7	天然記念物	7	植物	S32.3.26	ゲンカイツツジ	中津市耶馬溪町大字津民2150番地他	中津市	川原ロー帯に多く、春三月頃に紫色の花を咲かせる別名「彼岸ツツジ」ともいわれるツツジ。
41	20	記念物		8	天然記念物	8	植物	S32.3.26	キシツツジ	中津市耶馬溪町山国川筋山移川合流点から三尾母川合流点にいたる河川敷四キロメートル	中津市	山国川筋の山移川との合流点から下流へ4kmに多く自生し、5月頃に紅色又は白色の花を咲かせる特殊なツツジ。
42	1	民俗文化財		1	有形民俗文化財			S34.3.20	織部燈籠	中津市（殿町）	個人	古田織部の考案と伝えられている燈籠。キリシタン関係資料。
43	2	民俗文化財		1	無形民俗文化財			S32.3.26	北原人形芝居	中津市大字北原305番地	北原人形芝居保存会	700年前から伝わる操り人形芝居。
44	3	民俗文化財		2	無形民俗文化財			H16.3.30	中津祇園	中津市1647番地（古魚町）	中津祇園祭保存協議会	1430年頃の起こりと伝わる。山車での祭りは、1673年、時の藩主小笠原長勝公の時代より始まる。
45	4	民俗文化財		3	無形民俗文化財			H.21.3.17	鶴市傘鉾神事	中津市相原	鶴市花傘鉾保存振興会	お鶴・市太郎親子が人柱となった伝説が残る。神幸は1164年の始まりと伝わる。
46	5	民俗文化財		4	無形民俗文化財			S58.4.12	桧原マツ	中津市耶馬溪町大字中畑	桧原まつ保存会	桧原山正平寺で行なわれる神仏習合の御田植祭。
47	5	民俗文化財		5	無形民俗文化財			H29.3.7	宮園楽	中津市耶馬溪町大字宮園	宮園かつぱ楽保存会	雲八幡神社で行われるかつぱ祭りと呼ばれる楽打ち

県選択文化財一覧

	種別①		種別②		種別③	指 定 年 月 日	名 称	所 在 地	所 有 者	摘 要
1	選択 無形民俗文化財					S37.2.27	中津祇園会	中津市龍王町・三ノ丁		記録作成等の措置を講ずべきものとして選択

市指定文化財　一覧

R3.5.1現在

件数		種別①		種別②		種別③	指定年月日	名称	員数	所在地	所有者	備考
1	1	有形文化財	1	建造物	1	石造	S60.6.20	石幢	1基	中津市961番地(寺町)	個人	室町・桃山時代の八角石幢。
2	2	有形文化財	2	建造物	2	石造	S52.4.1	一石五輪塔	1基	中津市三光西秣1893番地	長谷寺	長谷寺境内の石垣の中にあり、総高75cm。
3	3	有形文化財	3	建造物	3	石造	S52.4.1	香紫庵宝塔	1基	中津市三光西秣香紫庵1153-1	個人	塔身に梵字陰刻、総高140cm。
4	4	有形文化財	4	建造物	4	石造	S54.11.7	長谷寺国東塔	1基	中津市三光西秣1893番地	長谷寺	長谷寺境内にあり、総高159cm。
5	5	有形文化財	5	建造物	5	石造	S54.11.7	熊野権現宝塔	1基	中津市三光西秣2155番地の3	長谷寺	長谷寺境内にあり、総高144cm。
6	6	有形文化財	6	建造物	6	石造	S54.11.7	堀田平石塔群		中津市三光西秣2155番地の1	長谷寺	長谷寺境内八十八ヶ所巡りのコース内にあり、宝塔・板碑・五輪塔群。
7	7	有形文化財	7	建造物	7	石造	S54.11.7	キリシタン墓	2基	中津市三光原口120番地	個人	通称「トマス墓」と呼ばれる隠れキリシタンの墓。
8	8	有形文化財	8	建造物	8	石造	H5.1.29	泰源寺橋	1基	中津市三光西秣	西秣区長	眼鏡橋。幅2m、長さ11.5m、径間9.5m、環厚0.42m。
9	9	有形文化財	9	建造物	9	石造	S48.11.9	粉宝塔	1基	中津市本耶馬溪町今行	粉地区	相輪は後補で、笠塔身、基礎とも完全なものである。（室町後期）
10	10	有形文化財	10	建造物	10	石造	S48.11.9	雲谷寺の宝篋印塔	1基	中津市本耶馬溪町西谷	雲谷寺地区	相輪は三輪を残して上部は欠損、笠及び塔身基礎はほぼ完全に残っている。
11	11	有形文化財	11	建造物	11	石造	S48.11.9	僧了海の真蹟	1基	中津市本耶馬溪町跡田	葉山神社	柱には禅海と石工藤助の名前等が刻まれている。
12	12	有形文化財	12	建造物	12	石造	S50.6.11	屋成家墓地石塔群		中津市本耶馬溪町東屋形	個人	宝塔10基以上、五輪塔40基以上散在する。
13	13	有形文化財	13	建造物	13	石造	S56.3.5	今行国東塔	1基	中津市本耶馬溪町今行鳥越	個人	総高186cm。相輪、笠、塔身、基礎ともほぼ完型。
14	14	有形文化財	14	建造物	14	石造	S56.3.5	今行宝塔	1基	中津市本耶馬溪町今行鳥越	個人	総高168cm。相輪は三輪を残して欠失している。
15	15	有形文化財	15	建造物	15	石造	S50.1.10	久福寺門前宝塔	1基	中津市耶馬溪町大字平田字寺ノ下39	巖洞山久福寺	久福寺前の室町時代末期に立てられた宝塔。
16	16	有形文化財	16	建造物	16	石造	S50.1.10	尾園板碑	1基	中津市耶馬溪町大字三尾母字尾園419	個人	室町時代に立てられたたかさ140cmの板碑。
17	17	有形文化財	17	建造物	17	石造	S50.1.10	中尾邸五重塔	1基	中津市耶馬溪町大字三尾母字覚音寺	個人	室町時代末期に立てられた高さ168cmの五重塔。
18	18	有形文化財	18	建造物	18	石造	S50.1.10	中尾邸三重塔	1基	中津市耶馬溪町大字三尾母字覚音寺	個人	室町時代末期に立てられた高さ122cmの三重塔。
19	19	有形文化財	19	建造物	19	石造	S50.1.10	中村邸宝塔	2基	中津市耶馬溪町大字戸原字口ノ林	個人	長岩城主の菩提寺跡にある室町時代末期の宝塔。
20	20	有形文化財	20	建造物	20	石造	S50.1.10	正平寺宝塔一号	1基	中津市耶馬溪町大字中畑松原山正平寺境内	松原山正平寺	正平寺開山正覚上人の墓と伝えられている宝塔。
21	21	有形文化財	21	建造物	21	石造	S50.1.10	正平寺宝塔二号	1基	中津市耶馬溪町大字中畑松原山正平寺境内	松原山正平寺	鎌倉時代初期または平安時代末期に立てられた宝塔。
22	22	有形文化財	22	建造物	22	石造	S50.1.10	千人塚両面板碑	1基	中津市耶馬溪町大字戸原字向戸原	個人	旧代官道沿いに立てられた高さ123cmの板碑。
23	23	有形文化財	23	建造物	23	石造	S50.1.10	下長谷五輪塔	3基	中津市耶馬溪町大字山移字下長谷	個人	室町時代末期に立てられた五輪塔。
24	24	有形文化財	24	建造物	24	石造	S50.1.10	相良邸宝篋印塔	1基	中津市耶馬溪町大字山移字下長谷	個人	豊前相良氏の供養塔と云われる宝篋印塔。

市指定文化財一覧

25	25	有形文化財	25	建造物	25	石造	S50.1.10	薬師堂異形宝篋印塔	1基	中津市耶馬溪町大字山移字池の塚6232番地	池の塚集落	高さ107cmの室町時代の宝篋印塔。
26	26	有形文化財	26	建造物	26	石造	S50.1.10	原井石塔群		中津市耶馬溪町大字山移字原井	個人	宝篋印塔六基、宝塔又は五輪塔が5～6基の石塔群。
27	27	有形文化財	27	建造物	27	石造	S50.1.10	棕権現宝塔	1基	中津市耶馬溪町大字大島字新藤野	新藤野集落	高さ80cmの室町時代後期の宝塔。
28	28	有形文化財	28	建造物	28	石造	S50.1.10	甲屋敷石塔		中津市耶馬溪町大字大島字都留1640番地	個人	室町時代の石造板碑2基他五輪塔、宝塔。
29	29	有形文化財	29	建造物	29	石造	S50.1.10	御祖神社宝塔	1基	中津市耶馬溪町大字金吉字山浦	御祖神社氏子	御祖神社境内の岩上にある総高109cm、鎌倉時代の宝塔。
30	30	有形文化財	30	建造物	30	石造	S50.1.10	飛瀬宝篋印塔	1基	中津市耶馬溪町大字金吉字飛瀬	個人	総高109cmの室町中期の宝篋印塔。
31	31	有形文化財	31	建造物	31	石造	S53.12.1	勝宮守及び子戸自売の墓	2基	中津市耶馬溪町大字平田字田ノ尻	巖洞山久福寺	久福寺の巖窟にある奈良時代の日本後記に名を知られた賢女とその夫の墓。
32	32	有形文化財	32	建造物	32	石造	S53.12.1	奥邸五輪の塔	1基	中津市耶馬溪町大字大島	個人	鎌倉時代の五輪の塔。
33	33	有形文化財	33	建造物	33	石造	S54.2.17	五輪塔 二基	2基	中津市山国町中摩長尾野493番地	個人	長尾雄一家の墓地内にある。火輪の一边が55cm、安山岩製で室町期の製作とされる。
34	34	有形文化財	34	建造物	34	石造	S54.2.17	宝塔 一基	1基	中津市山国町守実57番地の1	中津市	碑文の末行に文明4年(1472)の年号有り。
35	35	有形文化財	35	建造物	35	石造	S54.2.17	石幢	1基	中津市山国町守実57番地の1	中津市	塔身、笠、共に六角形。塔身の各面に地藏像が線で刻まれている。明応10年(1501)銘有り。
36	36	有形文化財	36	建造物	1	木造(石造)	S56.4.14	生田家門及び井戸	各1基	中津市1308番地(三ノ丁)	中津市	中津藩、家老生田家の門と井戸。
37	37	有形文化財	37	建造物	2	木造	S60.6.20	大江医家屋敷	1棟	中津市906番地(鷹匠町)	中津市	江戸時代の建築。御典医の屋敷(医局・薬局)の面影がある。
38	38	有形文化財	38	建造物	3	木造	S60.6.20	山門	1棟	中津市165番地(浦町)	個人	江戸時代の棟門造りの建築。
39	39	有形文化財	39	建造物	4	木造	H18.5.31	薦神社呉橋	1基	中津市大字大貞209番地1	薦神社	屋根付きの太鼓橋の形をとる呉橋は、太宰管内志にも登場。
40	40	有形文化財	40	建造物	5	木造	S63.12.22	亀岡八幡宮本殿	1棟	中津市山国町中摩5611番地の1	個人	中世この地域最大の実力者「中間氏」の氏神様。
41	41	有形文化財	41	建造物	6	木造	S63.12.22	新宮神社本殿	1棟	中津市山国町草本407番地	草本地区氏子	熊野速玉大社を勧請。総檜づくりの建築。
42	42	有形文化財	42	建造物	7	木造	H25.4.23	旧宇野屋住宅	1棟	中津市1828番地(諸町)	中津市	商家・宇野屋の建物と推定。江戸～明治初期の町屋の特徴を残す。
43	43	有形文化財	1	美術工芸品	1	工芸品	S60.6.20	翁面と太鼓	3点	中津市276番地(姫路町)	個人	寛永18年(1641)大貞神能に小笠原公が奉納した翁面と奥平公ゆかりの能太鼓。
44	44	有形文化財	2	美術工芸品	2	工芸品	S60.6.20	一節截	1管	中津市1485番地(京町)	個人	一重切とも呼ばれる尺八の一種で中国より伝来した楽器。
45	45	有形文化財	3	美術工芸品	3	工芸品	H16.2.13	徳永家槍(大笹穂)	1点	中津市大字大新田693番地の1	個人	銘：豊州高田住 藤原貞行 刃長：九寸九分
46	46	有形文化財	4	美術工芸品	4	工芸品	H19.8.10	刀	1点	中津市大字合馬461番地の1	個人	嘉永の頃。「則近作」の銘あり。
47	47	有形文化財	5	美術工芸品	5	工芸品	S54.1.10	ビワ(琵琶)		中津市本耶馬溪町曾木	中津市教育委員会	盲僧ビワといわれ稀なものである。作者不詳、材質は栓の木。
48	48	有形文化財	6	美術工芸品	6	工芸品	H15.5.16	日本刀	1点	中津市本耶馬溪町跡田1456番地2	個人	銘：平鎮元 刃長：2尺6寸
49	49	有形文化財	7	美術工芸品	7	工芸品	H19.8.10	刀	1点	中津市本耶馬溪町跡田1456番地の2	個人	寛文～延宝。「長利」の銘あり。
50	50	有形文化財	8	美術工芸品	1	彫刻	H12.1.21	木造観音菩薩立像(通称火伏せ観音)	1体	中津市大字蠣瀬504番地	西蠣瀬自治会	1 軀 室町時代(16世紀前期)
51	51	有形文化財	9	美術工芸品	2	彫刻	S48.11.9	十一面観音立像		中津市本耶馬溪町東屋形	中ノ迫地区	カヤ材の一木造り。腐食が著しく相ぼうははっきりしない。(平安末期)
52	52	有形文化財	10	美術工芸品	3	彫刻	S48.11.9	古羅漢磨崖仏		中津市本耶馬溪町跡田	中津市教育委員会	古羅漢の巨岩の東中腹に彫刻されている。半肉彫で優美な面相の毘沙門天像である。

市指定文化財一覧

53	53	有形文化財	11	美術工芸品	4	彫刻	S50.6.11	木造吉祥天女立像		中津市本耶馬溪町今行	宝福寺	三面皇冠をいただく吉祥天立像。（平安末期）
54	54	有形文化財	12	美術工芸品	5	彫刻	S50.6.11	木造菩薩形立像		中津市本耶馬溪町東谷	川出原地区	寄木造りで両手首、両足先は欠損している。（江戸末期）
55	55	有形文化財	13	美術工芸品	6	彫刻	S54.1.10	阿吽対面		中津市本耶馬溪町曾木	中津市教育委員会	荒神面。日田熊本にあるものに近い特徴を持つ。（室町時代）
56	56	有形文化財	14	美術工芸品	7	彫刻	S54.9.19	石造地藏菩薩像		中津市本耶馬溪町樋田	中津市教育委員会	青の洞門内にあったものを移し、現在は耶馬溪風物館に安置している。
57	57	有形文化財	15	美術工芸品	8	彫刻	S50.1.10	甲屋敷薬師如来立像		中津市耶馬溪町大字金吉字甲屋敷894	個人	木造で像高111cm、平安時代の薬師如来立像。
58	58	有形文化財	16	美術工芸品	9	彫刻	S50.1.10	杠葉釈迦如来立像		中津市耶馬溪町大字樋山路字杠葉	杠葉集落	木造で像高98cmの釈迦如来立像。
59	59	有形文化財	17	美術工芸品	10	彫刻	S54.2.17	木造不動明王立像		中津市山国町中摩6245番地	庄屋村自治区	藤原末期から鎌倉期の作品。高さ95cmの一本造り。右手を欠く。
60	60	有形文化財	18	美術工芸品	11	彫刻	S54.2.17	木造毘沙門天立像		中津市山国町中摩6245番地	庄屋村自治区	藤原末期から鎌倉期の成立。高さ95cmの一本造り。
61	61	有形文化財	19	美術工芸品	12	彫刻	S54.2.17	木造観音立像頭部		中津市山国町中摩3961番地	寺川自治区	大友宗麟の英彦山攻めで火災に遭い、村人が背負って逃げたが顔の一部が焼けたと伝わる。
62	62	有形文化財	20	美術工芸品	13	彫刻	S54.2.17	木造地藏像一体		中津市山国町藤野木89番地の14	成政自治区	室町期～桃山期の成立とみられる。昔は子どもたちと水浴びをしていたという伝説がある。
63	63	有形文化財	21	美術工芸品	14	彫刻	H25.4.23	聖徳太子坐像（講讃像）	1軀	中津市980番地（寺町）	寶蓮坊	聖徳太子が「勝鬘經」を講じた時の姿を現したもの。室町末から江戸時代初期の頃の作と推定。
64	64	有形文化財	22	美術工芸品	15	彫刻	H28.5.10	石造文殊菩薩坐像（禅海和尚の墓）附伝禅海和尚遺	1軀	中津市本耶馬溪町大字跡田字松尾1510-5	中津市	青の洞門を発掘した禅海和尚の逆修墓及び洞門開鑿に用いたと伝わる道具
65	65	有形文化財	23	美術工芸品	16	彫刻	H30.3.30	木造薬師如来坐像附位牌	1軀	中津市耶馬溪町大字平田字寺ノ下39	久福寺	本堂に安置。一木造で像高39.3 c m。像底に銘より嘉吉元年（1441）に造立と分かる。同一時期作とみられる蔵野勝宮守夫妻の位牌がある。
66	66	有形文化財	24	美術工芸品	1	古文書	S60.6.20	中津市祇園会記録	6冊	中津市462番地（下正路）	小幡記念図書館	中津祇園会の下祇園祭礼記録。享保14年（1729）より200年余りにわたり書き継がれる。
67	67	有形文化財	25	美術工芸品	2	古文書	S60.6.20	野依文書		中津市大字野依553番地	個人	江戸時代の野依村庄屋文書。
68	68	有形文化財	26	美術工芸品	3	古文書	S60.6.20	樋田文書	27点	中津市2313番地（金谷本町）	個人	元享2年（1322）以降の宇佐官関係文書含む。
69	69	有形文化財	27	美術工芸品	4	古文書	S60.6.20	山崎文書		中津市2118番地（栄町）	個人	山崎家は奥平家の家老職にあたる。御用所日記等、資料多数。
70	70	有形文化財	28	美術工芸品	5	古文書	S60.6.20	伊藤田文書	264点	中津市大字伊藤田209番地	個人	江戸時代の上伊藤田村庄屋文書。263点。
71	71	有形文化財	29	美術工芸品	6	古文書	S60.6.20	荒瀬井手発端書	1点	中津市1367番地（片端町）	中津市教育委員会	明治4年（1871）今津組大庄屋、今津小十郎が民政方御役所に宛てた文書。
72	72	有形文化財	30	美術工芸品	7	古文書	S50.6.11	屋形家文書		中津市本耶馬溪町西屋形	個人	中世（南北朝、室町時代）の文書多数。
73	73	有形文化財	31	美術工芸品	8	歴史資料	H27.4.24	野中文書	36点	中津市金谷西堀端2479	個人	鎌倉時代から江戸時代末までの古文書群。宇都宮姓野仲氏の動向を伝える中世文書と江戸時代の戸原村の様子を伝える近世文書からなる
74	74	有形文化財	32	美術工芸品	1	書跡	S56.4.14	進脩館扁額	1点	中津市1309番地（三ノ丁）	中津市	藩校進脩館の扁額、時の藩主奥平昌高の筆跡。
75	75	有形文化財	33	美術工芸品	2	書跡	S60.6.20	耶馬溪真景画版木	101点	中津市1385番地（殿町）	中津市教育委員会	郷土絵師松田竹園（彦六）の耶馬溪真景画版木100点余り。明治25年（1892）出版。
76	76	有形文化財	34	美術工芸品	1	絵画	S53.12.1	光円寺格子天井の書画		中津市耶馬溪町大字金吉字山浦	松栄山光円寺	文政3年に当時の住職が集めた当時有名な大家から集めた格子天井の書画。
77	77	有形文化財	35	美術工芸品	2	絵画？	S54.2.17	天満宮縁起絵巻		中津市山国町平小野318番地	菅原神社	菅原道真公の一代記と北野天神の利生記からなる全6巻。
78	78	有形文化財	36	美術工芸品	1	典籍？	S48.11.9	雲西寺の経堂・經典		中津市本耶馬溪町落合	雲西寺	大藏經などの仏教書、四書五經の一部や古事記、日本書紀をはじめ江戸時代の文学書など。
79	79	有形文化財	37	美術工芸品	1	考古資料	S56.4.14	土偶二鉢	2鉢	中津市1385番地（殿町）	中津南高等学校	昭和24年（1949）南校校庭で土器と共に出土。縄文時代後期。
80	80	有形文化財	38	美術工芸品	1	歴史資料	S56.4.14	白石照山の墓付 記念碑	各1基	中津市大字角木335番地 中津市588番地（留守居町）	中津市	白石照山：文化12年（1815）～明治16（1883）年
81	81	有形文化財	39	美術工芸品	2	歴史資料	S56.4.14	独立自尊之碑	1基	中津市1278番地（二ノ丁）	中津市	明治37年（1904）建立。筆跡は明治の書家、日下部東作（鳴鶴）。

市指定文化財一覧

82	82	有形文化財	41	美術工芸品	3	歴史資料	S56.4.14	奥平関係資料	5点	中津市1273番地2(二ノ丁)	個人	白鳥の槍、信昌公甲冑、鳥居強右衛門の図、長篠合戦図、徳川家康の親書。
83	83	有形文化財	42	美術工芸品	4	歴史資料	S60.6.20	お水道の石樋		中津市1385番地(殿町)	中津市教育委員会	元和6年(1620)細川忠興が三口より城内まで水道を引く。承応元年(1652)には町中水道を埋設。
84	84	有形文化財	43	美術工芸品	5	歴史資料	H12.1.21	村上医家関係資料	6点	中津市1370番地(諸町)	個人	寛永17年(1640)以来、現在に至るまでの医学関係および蘭学関係資料。
85	85	有形文化財	44	美術工芸品	6	歴史資料	H12.1.21	蘭語訳撰	5冊	中津市1366番地(片端町)	中津市教育委員会	文化7年(1810)江戸で出版された日蘭辞典。5冊
86	86	有形文化財	45	美術工芸品	7	歴史資料	H12.1.21	根来東叔の「人身連骨真形図」	2点	中津市1370番地(諸町)	個人	寛保元年(1741)、日本でも早い時期に人骨を詳細に観察し写生したものの一つ。2幅。
87	87	有形文化財	46	美術工芸品	8	歴史資料	H12.1.21	華岡青洲画像	1点	中津市906番地(鷹匠町)	個人	大坂合水堂で華岡青洲に学んだ大江雲澤が帰藩の際に持ち帰る。
88	88	有形文化財	47	美術工芸品	9	歴史資料	H12.1.21	旧辛島医家関係資料	5点	中津市1385番地(殿町)	中津市教育委員会	4代辛島正庵の研究した痘瘡関係史料。
89	89	有形文化財	48	美術工芸品	10	歴史資料	H22.6.29	中津城下絵図	1点	中津市1385番地(殿町)	中津市歴史民俗資料館	天保年間の奥平藩政期の中津城下の町割が詳細に描かれている絵図
90	90	有形文化財	49	美術工芸品	11	歴史資料	H22.6.29	豊前國中津勝景之図	1点	中津市1385番地(殿町)	中津市歴史民俗資料館	幕末頃に山国川・駅館川・周防灘の水系を中心として旧豊前国の風景を描いたもの。
91	91	有形文化財	50	美術工芸品	12	歴史資料	H23.3.30	正行寺扁額(奥平昌高書)	1点	中津市永添1148-1	正行寺	奥平中津藩主第5代奥平昌高が揮毫した扁額。正行寺住職の雲華上人と昌高の交友関係がわかる資料。
92	1	民俗文化財	1	有形民俗文化財	1	庶民信仰物	S60.6.20	高瀬の辻の道標	1基	中津市大字高瀬143番地2	個人	勅使街道と日田街道が交わる要衝に建てられた道標。
93	2	民俗文化財	2	有形民俗文化財	2	庶民信仰物	S60.6.20	織部燈籠	1基	中津市165番地(浦町)	個人	別称キリシタン燈籠。安土桃山から江戸初期の大名、古田織部の考案。
94	3	民俗文化財	3	有形民俗文化財	3	庶民信仰物	S60.6.20	納涼塚	1基	中津市165番地(浦町)	個人	文化13年(1816)の建立。筆跡は、本田丹後守忠永。
95	4	民俗文化財	4	有形民俗文化財	4	庶民信仰物	H27.4.24	中津祇園の鉦	2点	中津市1550番地(古博多町)	個人	両方の鉦とも伏鉦で、祇園の時に囃子鉦として使用されていた。
96	5	民俗文化財	1	無形民俗文化財	1	風俗慣習?	S60.6.20	かます餅祭り		中津市大字中殿588番地1	貴船神社	白鳥の大群が芋の苗をくわえて飛来し、苗が餅となって飢える人々を救ったと伝わる祭礼。
97	6	民俗文化財	2	無形民俗文化財	2	風俗慣習?	S60.6.20	さいすくい祭り		中津市大字上宮永1123番地	貴船神社	宮下の小川に入り、すくいあげた小魚を神前に供え、豊穣の感謝と安泰を祈念する神事。
98	7	民俗文化財	3	無形民俗文化財	3		H21.5.28	小祝番所踊り		中津市小祝	番所踊り保存会	島原の乱(1637年)に中津藩が出陣し多数の死傷者を出したため、その供養踊りとして始まった。
99	8	民俗文化財	4	無形民俗文化財	4	風俗慣習?	S50.1.10	大野八幡神社やんさ祭保存会		中津市耶馬溪町大字大野	大野八幡神社やんさ祭保存会	応永元年(1394)より始まった野中氏にまつわる勇壮な裸祭り。
100	9	民俗文化財	5	無形民俗文化財	1	民俗芸能	S50.1.25	豊前国耶馬溪神楽		中津市本耶馬溪町東谷	本耶馬溪町神楽保存会	東谷村の頃、屋成多三吉という宮大工によって東谷と屋形に伝えられる。
101	10	民俗文化財	6	無形民俗文化財	2	民俗芸能	S50.1.10	岩戸神楽		中津市耶馬溪町大字深耶馬中津市耶馬溪町大字戸原	深耶馬神楽保存会 戸原神楽保存会	豊前岩戸神楽と称し、現在では戸原神楽社と深耶馬神楽社と2つの神楽社がその継承に努めている耶馬溪地方に伝わる神楽。
102	11	民俗文化財	7	無形民俗文化財	3	民俗芸能?	S54.2.17	白地楽		中津市山国町中摩	白地楽保存会	約280年前から伝わる楽。子ども4名、大人4名で水神(カッパ)を鎮める所作。
103	12	民俗文化財	8	無形民俗文化財	4	民俗芸能?	H29.5.8	樋山路楽・二瀬楽		中津市耶馬溪町大字樋山路	樋山路共有	樋山路共有が保持するカッパ祭り。伊勢山大神社と二瀬天満宮でそれぞれ実施される。
104	1	記念物	1	史跡			S56.4.14	岩井崎横穴墓群		中津市大字伊藤田字倉迫3660・3661・3671	個人	550年頃から数十年にわたって造営されたと思われる。
105	2	記念物	2	史跡			S56.4.14	大畑城跡		中津市大字加来1388番地	七社宮	寿永3年(1184)頃、平家追討のため緒方惟栄により築城。
106	3	記念物	3	史跡			S56.4.14	烽火台	1基	中津市大字野依	個人	文化4年(1807)、異国船に備えるため沿岸各地に設置された烽火台の一つ。
107	4	記念物	4	史跡			S56.4.14	藩校進脩館跡		中津市1367番地(片端町)	中津市	寛政2年(1790)、奥平昌高により創立。明治5年に消滅。
108	5	記念物	5	史跡			S56.4.14	皇学校跡		中津市1298番地(三ノ丁)	個人	明治4年(1871)、増田宋太郎により創立。国学を教える。
109	6	記念物	6	史跡			S56.4.14	市学校跡		中津市1309番地(三ノ丁)	中津市	明治4年(1871)、福澤諭吉の建議により創立。洋学を中心に教授。
110	7	記念物	7	史跡			S56.4.14	村上玄水旧宅		中津市1780番地(諸町)	個人	九州で最初の人体解剖を行い「解剖図説」を著す。現村上医家史料館。
111	8	記念物	8	史跡			S56.4.14	増田宋太郎生誕の地 附 西南の役 中津隊の碑	各2基	中津市619番地(弓町) 中津市1273番地1(二ノ丁)	中津市	大分県内最初の新聞、田舎新聞初代編集長として自由民権を唱える。西南の役で西郷軍に参加し戦死したと伝わる。
112	9	記念物	9	史跡			S56.4.14	小幡篤次郎小幡英之助生誕の地		中津市1385番地(殿町)	中津市	篤次郎、慶応義塾の二代目学長となり福澤諭吉の片腕として活躍。英之助、日本歯科医師の祖。

市指定文化財一覧

113	10	記念物	10	史跡			S56.4.14	中上川彦次郎 生誕の地		中津市2240番地(金谷森ノ丁)	中津市	慶応義塾に学び、実業家として三井財閥の基礎を築く。
114	11	記念物	11	史跡			S56.4.14	水島鏡也生誕の地		中津市2323番地(金谷本町)	中津市	神戸高商（現神戸大学）の初代校長を務めるなど初期の商業教育に尽力。
115	12	記念物	12	史跡			S56.4.14	和田豊治生誕の地		中津市552番地(鷹部屋)	中津市	鐘紡・富士紡等の社長を歴任。
116	13	記念物	13	史跡			S56.4.14	合元寺の赤壁		中津市698番地(寺町)	個人	白壁に着いた血が何度塗りなおしても滲むため、遂に壁を赤く塗ったと伝わる。
117	14	記念物	14	史跡			S56.4.14	福澤家の墓	2基	中津市1060番地(桜町)	個人	福澤家4代の福澤友米の妻の墓と、福澤家・飯田家の合同墓二基。
118	15	記念物	15	史跡			S60.6.20	雲華上人墓	1基	中津市大字永添1207番地	個人	安永2年(1773)～嘉永3年(1850)、正行寺の僧。学問に秀で、書画にも優れた。
119	16	記念物	16	史跡			S60.6.20	城土遺跡		中津市大字伊藤田3548番地	個人	鎌倉から室町時代の地下式横穴墓。
120	17	記念物	17	史跡			H14.10.1	御船寄		中津市1番地地先	大分県	江戸期、中津藩の海の玄関口。
121	18	記念物	18	史跡			S54.11.7	臼木古墳 第一号墳	1基	中津市三光臼木901番地の4	個人	6世紀頃の円墳墓で一部開口している。
122	19	記念物	19	史跡			S54.11.7	臼木古墳 第二号墳	1基	中津市三光臼木913番地の1	個人	1号墳とほぼ同じ大きさで羨道部が開口している。
123	20	記念物	20	史跡			S54.11.7	臼木古墳 第三号墳	1基	中津市三光臼木942番地の4	個人	玄室・羨道部の石組みが露出している。
124	21	記念物	21	史跡			S54.11.7	臼木古墳 第四号墳	1基	中津市三光臼木950番地の2	個人	石組みが一部露出している。
125	22	記念物	22	史跡			S48.11.9	阿羽羅堂		中津市本耶馬溪町東屋形986番地	中ノ迫地区	八面山南側の中腹、七曲峠の近くにあり、中の迫より徒歩40分。（奈良時代）
126	23	記念物	23	史跡			S48.11.9	代官道路		中津市本耶馬溪町西谷	割子谷地区	西谷割子谷地区より耶馬溪町山移に通じる道路で、点々と石畳が残っている。
127	24	記念物	24	史跡			S54.9.19	羅漢寺旧参道		中津市本耶馬溪町跡田	羅漢寺	本耶馬溪町門前地区より羅漢寺への参道で百間馬場とも呼ばれている。
128	25	記念物	25	史跡(台帳には有文)			S50.1.10	ホキの上古墳		中津市耶馬溪町大字平田	個人	6世紀頃に造られた径約7m、高さ4mの円墳。
129	26	記念物	26	史跡			S50.1.10	姫塚		中津市耶馬溪町大字戸原口ノ林	個人	戦国時代、長岩城落城にまつわる追悼の塚。
130	27	記念物	27	史跡			S50.1.10	大木原普門寺石塔群		中津市耶馬溪町大字山移字馬場	個人	室町時代の宝篋印塔、宝塔、五輪塔23基。
131	28	記念物	28	史跡			S50.1.10	後藤又兵衛の墓		中津市耶馬溪町大字金吉字伊福	個人	黒田長政に仕えた後藤又兵衛の墓。
132	29	記念物	29	史跡			S53.12.1	一ツ戸城址		中津市耶馬溪町大字宮園一ツ戸	一ツ戸集落	戦国時代、当時としては珍しい入れ札で黒田氏と和解した中間氏の居城。
133	30	記念物	30	史跡			S54.2.17	身代わり不動		中津市山国町小屋川1572	所小野自治区	英彦山49窟の一つと推定されている。身代わり観音の伝説有り。
134	31	記念物	31	史跡			S54.2.17	三所権現社		中津市山国町守実2877	三所権現氏子	社殿創建は南北朝以前。神仏分離令にも屈せぬ寺社機構。
135	32	記念物	32	史跡			H22.6.29 H23.7.28 H24.5.22	中津城おかい山		中津市904番地1,3(鷹匠町)1909番地4～9(新魚町)1310番地17,18(三ノ丁)	中津市	中津城下を守る要塞として、外堀沿いと中堀沿いに築かれた土塁。
136	33	記念物	1	天然記念物	1	植物	S56.4.14	天満宮の照葉樹林		中津市大字犬丸	個人	犬丸天満宮の自然林。

市指定文化財一覧

137	34	記念物	2	天然記念物	2	植物	S60.6.20	長久寺のコシイ林(アラカシ林)		中津市大字福島2171番地	個人	田丸城跡の濠内側の土塁上に自生。
138	35	記念物	3	天然記念物	3	植物	S52.4.1	サザンカ	1本	中津市三光成恒245番地	個人	推定樹齢400年
139	36	記念物	4	天然記念物	4	植物	S52.4.1	キンモクセイ	1本	中津市三光成恒245番地	個人	推定樹齢400年
140	37	記念物	5	天然記念物	5	植物	S53.12.1	光円寺のしだれ桜		中津市耶馬溪町大字深耶馬字小柿山	竜求山光円寺	樹齢350年以上といわれ、樹の太さ約3m、高さ10mの枝垂桜。
141	38	記念物	1	名勝	1	自然名勝	S54.2.17	魔林峡		中津市山国町草本227番地の1、236番地の5～8	中津市	甌穴の岸壁がせり立つ溪谷。
142	39	記念物	2	名勝	1	人文名勝	S54.2.17	雪舟庭		中津市山国町中魔1769	中津市個人	雪舟が大分に10年滞在した時に築いたのではと伝えられる。

〔４〕郷土の偉人たち

	福澤諭吉 〔ふくざわ ゆきち〕 1835-1901	江戸末期から明治期の啓蒙思想家・教育者。初め蘭学、後に英学を学び、幕府使節に随行して3度欧米に渡ります。慶應義塾を創設し、在野にあって、教育と著書を中心に啓蒙活動を行いました。著書「学問のすすめ」「文明論之概略」など。
	小幡篤次郎 〔おばた とくじろう〕 1842-1905	慶應義塾塾長、貴族院議員。福澤諭吉が中津の子弟6名を江戸の自塾に入学させたうちの一人。藩校進脩館や慶應義塾で学び、後に慶應義塾塾長になりました。慶應義塾や中津市学校のほか幕府の開成所、大学南校(東京大学の前身の一つ)や東京師範学校(筑波大学の前身の一つ)などでも教授したほか憲法草案をはじめ諸新制度を手掛けました。終始福澤諭吉を補佐し、福澤に次いで慶應義塾社中の尊敬を集めました。没後、殿町の生家には、寄付された多くの図書を元に新しい図書館が建てられました。
	濱野定四郎 〔はまの さだしろう〕 1845-1909	明治期の教育者、慶應義塾塾長。福澤諭吉が中津の子弟6名を江戸の自塾に入学させたうちの一人。のちに慶應義塾の初代塾長になります。中津市学校では小幡篤次郎のあとの学校長を勤めました。学校長を辞してのち、終生慶應義塾発展に尽力しました。
	中上川彦次郎 〔なかみがわ ひこじろう〕 1854-1901	明治期の実業家。母は福澤諭吉の姉。藩校進脩館や慶應義塾で学び、卒業後中津市学校などの英語教師をした後、イギリスに留学。帰国後、工部省や外務省に勤めたのち、時事新報社長を経て、その後、山陽鉄道創設時の社長後、三井に入り三井銀行理事を経て、三井財閥の基礎をつくり、近代化に努力しました。
	朝吹英二 〔あさぶき えいじ〕 1849-1918	日田の咸宜園や白石照山塾などで学び、慶應義塾を経たのち実業界に身を投じて活躍します。鐘紡や王子製紙などの三井財閥系の諸企業の要職を歴任しました。中上川、和田とともに福澤門下の3大実業家と言われます。
	和田豊治 〔わだ とよじ〕 1861-1924	明治・大正期の実業家、貴族院議員。村上田長の書生となり、中津市学校に通学しました。中津開運社などの支援を受け慶應義塾に学び、卒業後アメリカの甲斐商店などで働きました。帰国後、富士紡績などで活躍するほか、多数の会社の要職を歴任し、大正時代の財界世話人と呼ばれました。郷土の中津に和田奨学資金を設けました。
	小幡英之助 〔おばた えいのすけ〕 1850-1909	明治時代の歯科医、近代歯科の先駆者で歯科医師免許第1号。慶應義塾に入り洋学を学び、のち横浜で歯科を学びます。第1回の開業医免許試験に合格し新制度における国内初の歯科医師となりました。

	白石照山 [しらいし しょうざん] 1815-1883	江戸末期から明治期の儒学者・教育者。福澤諭吉の師。 臼杵藩儒官・中津藩儒官。中津藩儒野本白巖に学び、その後江戸に遊学して昌平坂学問所などで学びます。帰藩し家塾を開きますが、「御固番事件」で藩を追放されました。その後、臼杵藩儒官などを勤めたのち、中津藩校の教授となりました。藩校閉鎖後、家塾で子弟教育に尽くしました。
	増田宋太郎 [ますだ そうたろう] 1849-1877	明治期の民権家、西南の役中津隊隊長。 親戚の渡辺重石丸の道生館で国学を学びました。中津で創刊された田舎新聞の初代編集長として自由民権を説きます。西南の役で中津隊を結成し、西郷軍に加わり、鹿児島で戦死したと伝えられています。
	川村矯一郎 [かわむら きょういちろう] 1852-1891	明治期の篤志家。 道生館で国学を学び、自由民権運動に奔走します。政治犯として3度の入獄を経験、出所後、刑務所の改善運動に尽力し、のちに刑務所長となりました。また、金原明善らと出獄人保護事業に取り組み、日本で最初の出獄人保護会社を設立し、「更生保護の父」と呼ばれています。
	田代基徳 [たしろ もとのり] 1839-1898	江戸末期から明治にかけての外科医。 緒方洪庵の適塾で蘭学を学びます。軍医医監、陸軍軍医学校長を務め、松本良順等と医学会の始まりである、「医学会社」を起こしました。「医事新聞」を発行して近代外科学の基礎を築きました。
	奥平昌鹿 [おくだいら まさか] 1744-1780	江戸中期の中津藩主。 郡村税法の法令集を編纂するなど藩政に力を入れました。また、絵画や和歌に優れ、前野良澤の蘭学研究や儒学を保護する傍ら、国学を賀茂真淵から学びました。
	奥平昌高 [おくだいら まさたか] 1781-1855	江戸後期中津藩主、蘭学者。薩摩藩主島津重豪の二男。中津藩主奥平昌男の養子となり、藩校進脩館を創設します。国学者渡辺重名に国学・和歌を学ぶ傍ら蘭学を学びました。中津辞書と称される「蘭語訳撰」（日蘭辞書）、「中津バスタールド辞書」（蘭日辞書）を出版しました。
	辛島正庵 [からしま しょうあん] 1779-1857	江戸後期の蘭方医。中津藩医。 号は東溪。種痘の研究に努める。嘉永2年(1849)辛島正庵を筆頭に10名の医師たちが長崎で痘苗をもらい、中津で最初の種痘を行いました。

	村上玄水 [むらかみ げんすい] 1781-1843	江戸後期の医者、中津藩医。 文政2年(1819)3月8日、藩の許可を得て、解剖を行い、この解剖の記録を、「解臓記」「解剖図」として詳細に残しました。
	大江雲澤 [おおえ うんたく] 1822-1899	江戸末期から明治にかけての医者。中津藩医。中津医学校校長。華岡医塾大阪分塾(合水堂)に学び、藩医の傍ら医塾を開き多くの門人を育てました。「医は不仁の術、務めて仁をなさんと欲す」は大江医家の医訓。
	前野良澤 [まえの りょうたく] 1723-1803	江戸中期の蘭学者、中津藩医。 蘭学の開祖といわれ、杉田玄白たちと苦心の末、オランダ語のクルムスの解剖書を訳して1774年「解体新書」が刊行されました。良澤は、翻訳作業の中心をつとめました。
	村上田長 [むらかみ でんちょう] 1839-1906	明治期の医者、ジャーナリスト、教育者。 現福岡県秋月に生まれ、中津の村上家の養子となります。陽明学を学び、のち大阪医学校で学びます。県内最初の本格的な新聞田舎新聞を創刊。大分中学校初代校長と大分師範学校校長も兼任し、玖珠郡長も勤めました。
	村上功児 [むらかみ こうじ] 1879-1963	村上田長の四男。早稲田大学を卒業。 井筒屋や西鉄の社長として活躍。西日本の産業・経済界に多大な貢献をしました。また、東洋のアンデルセンと呼ばれた久留島武彦とは竹馬の友であった関係から、私財を投じて子ども図書館「童心会館」を設立しました。
	磯村豊太郎 [いそむら とよたろう] 1868-1939	明治期から昭和期の実業家、貴族院議員。 慶應義塾に学び、三井物産ロンドン支店長、北海道炭坑汽船社長ほか要職を歴任します。昭和2年に完成した中津公会堂建築のため5万円を寄付しました。
	田原淳 [たわ(は)ら すなお] 1873-1952	明治期から昭和期の医学者、心臓病理学の権威。 福岡医科大学(現九州大学医学部)教授、九州大学温泉医療学研究所(現九州大学病院別府病院)の初代所長。 安岐町に生まれ、中津の田原家の養子となります。東京大学卒業後、私費でドイツへ留学。哺乳類の心臓筋肉について研究し、心臓の刺激伝導系(のちに田原結節と呼ばれる)の発見により学士院恩賜賞を授与されました。
	水島鍊也 [みずしま てつや] 1864-1928	明治・大正期の教育者。 神戸商業講習所・東京外国語学校附属高等商業学校で学び、卒業後教師となります。神戸高商(現神戸大学)の創立委員となり、初代校長を勤め初期の商業教育に尽力しました。

	廣池千九郎 [ひろいけ ちくろう] 1866-1938	明治期から昭和期の教育者、法学博士、「古事類苑」の主席編集者。麗澤大学・モラロジー研究所の創設者。中津市学校で学び、26才で「中津歴史」を著します。モラロジー(道德科学)の研究に取り組みました。
	宇都宮仙太郎 [うつのみや せんたろう] 1866-1940	明治期から昭和期の北海道酪農の指導者、日本酪農の父、雪印乳業の創設者の一人。北海道に渡り、農商務省真駒内牧場に牧夫として勤めたのち、渡米してウイスコンシン州立農事試験場や州立短期大学などで学んだ。
	渡邊重名 [わたなべ しげな] 1759-1830	中津藩国学者、古表神社(福岡県築上郡吉富町)宮司。京都で儒学を学びます。また、荒木田久老や本居宣長に国学を学び、本居門下十哲の一人に教えられました。帰郷後、藩校進脩館の教授も勤めています。
	雲華上人 [うんげ しょうにん] 1773-1850	江戸後期の僧侶。豊後竹田の満徳寺に生まれ、京の東本願寺に学び、学頭にまでなります。懇望されて中津の正行寺の法灯を継ぎました。書画にも優れ、京では田能村竹田ほかの文人と幅広く交友しています。
	島田虎之助 [しまだ とらのすけ] 1814-1852	江戸後期の剣術家。「男子の本懐剣にあり」と九州各地を武者修行。のち江戸に出て「剣は心なり」の極意を悟ります。男谷信友の道場で免許皆伝を受け、浅草に真影流の道場を開きました。勝海舟は門弟の一人。
	村上姑南 [むらかみ こんなん] 1818-1890	江戸末期から明治期の医者、儒学者。21歳で咸宜園の都講となり、後に医者となります。天然痘で死んでいく子ども達を救うために、自ら佐賀藩に赴き種痘術を入手し、多くの命を救いました。後半は、咸宜園の再興のために塾頭を務め、また、私塾を開設するなど医学や教育の発展に大きな功績を残しました。
	毛谷村六助(貴田孫兵衛) [けやむら ろくすけ (きだ まごべえ)] 1570-1632	百姓から加藤清正の家臣に取り立てられた禄高九百石の武士。名を貴田孫兵衛と改め、文禄の役では一番槍の功名を馳せたといわれています。六助を題材とした浄瑠璃・歌舞伎「彦山権現誓助剣」はあまりにも有名。